

平成26年度

新宿区協働事業評価報告書

(協働事業提案実施事業)

新宿区協働事業評価会

# 「平成26年度 新宿区協働事業評価報告書」

## \*目次\*

|   |                                     |    |
|---|-------------------------------------|----|
|   | 新宿区協働事業提案制度による協働事業の評価を終えて・・・・・・・・・・ | 2  |
| 1 | 協働事業評価の概要・・・・・・・・・・                 | 3  |
| 2 | 評価の目的・・・・・・・・・・                     | 4  |
| 3 | 評価の手法・・・・・・・・・・                     | 4  |
| 4 | 評価の対象・・・・・・・・・・                     | 6  |
| 5 | 協働事業評価実施事業・・・・・・・・・・                | 7  |
| 6 | 協働事業の評価結果・・・・・・・・・・                 | 8  |
|   | ～ 働きやすい職場づくりの情報発信事業 ～               |    |
|   | <b>【参考資料】</b> ・・・・・・・・・・            | 13 |
| 1 | 協働事業事前確認書・・・・・・・・・・                 | 14 |
| 2 | 協働事業自己点検シート・・・・・・・・・・               | 15 |
| 3 | 協働事業相互検証シート・・・・・・・・・・               | 18 |
| 4 | ヒアリング時提出資料・・・・・・・・・・                | 20 |
|   | ～ 働きやすい職場づくりの情報発信事業 中間報告 ～          |    |

平成27年2月6日

新宿区長 吉住 健一 様

平成26年度実施の協働事業提案制度による協働事業について  
次のとおり評価しましたので、報告します。

新宿区協働事業評価会 会長 久塚 純一

協働事業評価会委員

|    | 委員の区分                   | 氏 名           | 職 名                                       |
|----|-------------------------|---------------|---|
| 1  | 学識経験者                   | 会 長<br>久塚 純一  | 早稲田大学社会科学総合学院教授                           |
| 2  | 非営利活動団体<br>構成員          | 副会長<br>宇都木 法男 | 一般社団法人<br>ユニバーサル志縁社会創造センター<br>理事          |
| 3  |                         | 関口 宏聡         | 特定非営利活動法人<br>シーズ・市民活動を支える制度を<br>つくる会 常務理事 |
| 4  | 区 民                     | 太田 節子         | 公 募 区 民                                   |
| 5  |                         | 衣川 信子         | 公 募 区 民                                   |
| 6  |                         | 竹井 陽一         | 公 募 区 民                                   |
| 7  | 区内事業所の<br>社会貢献部門<br>経験者 | 伊藤 清和         | 元富士ゼロックス東京(株)<br>CSR部社会貢献推進グループ           |
| 8  | 新宿区社会福祉<br>協議会職員        | 井下 典男         | 新宿区社会福祉協議会事務局次長                           |
| 9  | 区 職 員                   | 針谷 弘志         | 総合政策部長                                    |
| 10 |                         | 加賀美 秋彦        | 地域文化部長                                    |
| 11 |                         | 吉村 晴美         | 子ども家庭部長<br>(事業担当部長)                       |

## 新宿区協働事業提案制度による協働事業の評価を終えて

新宿区協働支援会議では平成18年3月に「協働事業提案制度の導入について」・「協働事業評価制度の導入について」の2つの報告書を取りまとめ、新宿区長に提出しました。協働事業提案制度は、この報告を受け、平成18年度から導入されたものです。

新宿区は、基本構想・総合計画でめざすまちの姿として「『新宿力』で創造する、やすらぎとにぎわいのまち」を掲げ、まちづくりの6つの基本目標の一つとして、「区民が自治の主役として、考え、行動していけるまち」、また、区政運営の6つの基本姿勢として、「区民起点の区政運営」・「地域力を高める区政運営」・「参画と協働を基本に区民の知恵と力を活かす区政運営」等を計画に定めています。協働事業提案制度は、こうしたまちづくりの基本目標等を達成するための具体的な取組みの一つであり、基本構想に掲げる「新宿力」を形づくる一つの手法として「地域の力」と「多様性」を活かす仕組みとなるものです。

協働事業提案制度が推進されることで、多様な主体が担い手となり地域を支える「よりよい地域社会」が形成されると考えます。また、区民が様々な分野で参画する地域社会づくりを進めていくためには、「NPO等と区が実施する協働事業によって地域社会にどのような変化が表れるのか」、「区民の生活の課題がどのように解決されていくのか」を区民に示していくことが必要です。さらに、事業の計画段階から効果測定に至るまで、それぞれのステージで客観的に評価を行い、事業実施に反映し、改善に繋げていくことが大切です。

評価については、平成24年度に実施した協働事業提案制度の見直しにより、評価委員の拡大、評価委員による視察の導入、評価内容の変更等を行いました。特に、評価内容の変更については、事業実施1年目は協働の視点により評価を行い、事業実施2年目・3年目は、協働の視点に加え、「地域課題の解決」・「具体的な成果・効果」・「区民・NPOへの波及効果」の視点で評価を行うこととしました。

このような基本認識の下、平成26年度は、事業実施1年目の協働事業を対象に、「計画」・「実施」・「反省と改善」の3項目について評価を実施しました。事業担当課・実施団体へのヒアリングを通じて、団体の専門性を生かして事業実施に取り組む状況や、事業実施における課題を双方で情報共有し事業に反映する状況等を確認することができました。

区民の参画や地域との連携の下、協働のまちづくりが促進され、地域課題の解決が図られ、多様な人々にとって新宿区がさらに暮らしやすいまちとなることを期待します。

本報告書は、新宿区協働事業提案制度実施要綱第11条第2項に基づき、新宿区長に報告いたします。

新宿区協働事業評価会  
会長 久塚 純一

## 1 協働事業評価の概要

新宿区では、各主管課において多様な主体と様々な協働事業が進められ、26年度の協働事業進捗調査では、195に及ぶ事業が様々な協働形態で行われています。その中で、協働事業提案制度により26年度に実施された「働きやすい職場づくりの情報発信事業」について評価を実施しました。

事業の評価については、16年に策定した「地域との協働推進計画」が基本目標として掲げる「多様で新たな区民ニーズへの対応」や「区民の参画意識と主体的な区民活動の促進」、「行政の体質改善」に結びつく取組みになっているのか、また、「相互理解」、「自主・自立性」、「対等の関係」等、6つの「協働の基本原則」を十分踏まえ、事業の目標等が達成できたかといった点から評価を行いました。

また、協働の中身・質を高め、事業の目標や意図する成果を達成していくためには、協働の当事者が、互いにプロセスや成果を確かめ、議論し合い、相互検証を行うといった、一つひとつの経験を積み重ねていくことが大切です。そして、「計画」・「実施」・「結果」・「反省と改善」といった各事業の場面における評価基準を定め、客観的にその取組みの評価を行い、実施の場面で改善に繋げていくことが必要です。

そのため、各事業の評価については、協働事業の開始時に事業実施団体と区担当課が、事業の目的や目標、想定する成果等を共有したことを明確にするために作成した「事前確認書」と、事業の振り返りのために作成した「協働事業自己点検シート」・「相互検証シート」をもとに、提案団体と区の事業担当課へのヒアリングを行いながら協働事業評価会が評価を実施しました。

事業の評価結果については、8頁以降に記載のとおりです。

なお、今年度は、平成24年度の協働事業提案制度見直し後、最初の評価となりました。大きな見直し項目は、以下のとおりです。

### (1) 評価委員の拡大

事業採択から、事業実施、終了時まで一貫した評価を実施するため、従来評価を行っていた協働支援会議の委員に加えて、協働事業提案制度審査会構成員である総合政策部長、地域文化部長、事業担当部長（26年度は子ども家庭部長）を加えました。

### (2) 委員による事業視察

事業の進捗状況や協働の達成度合いなどの取り組み状況を確認するため、評価に事業視察を組み込みました。

### (3) 評価内容の変更

従来は、協働の視点から「計画」・「実施」・「結果」・「反省と改善」の各項目により評価を行っていました。評価の一貫性を確保し、事業の実効性を高めていくために、「結果」については、審査基準で求めている「地域課題の解決」、「具体的な成果・効果」、「区民・地域社会への波及効果」等の視点を加えて評価することとしました。

なお、実施1年目の事業は、事業実施後間もない時期に評価を行うことから「結

果」については評価を行わず、「計画」・「実施」・「反省と改善」の3項目による評価を実施します。

#### (4) 評価の実施時期の変更

従来は、10月に評価を実施し、2月に評価報告書を発行していました。見直しにより、1年目は10月に事業評価を実施し、2月に評価報告書を発行します。2年目以降は、翌年度の事業継続の判断に活用するため、6月に事業評価を実施し、9月に評価報告書を発行します。

## 2 評価の目的

協働事業の評価は、協働の意義を明確にするとともに、それぞれの事業の意図する成果の達成状況を明らかにすることを目的として行います。

〈協働の意義〉

- ① 区民生活にとって効果的な事業を実施すること
- ② 協働を進めるNPO等と区が相互理解を進め、対等な関係を築いていくこと
- ③ 区民の主体的な活動を推進しコミュニティの形成につなげていくこと
- ④ 前例の踏襲や組織の縦割りの弊害など、これまでの区の仕事の内容や進め方を見直す契機とすること
- ⑤ 様々な主体の自立性を高め役割分担を明確にしていくこと
- ⑥ 協働事業を発展させ、住民福祉の維持向上と住民自治を推進していくこと
- ⑦ 区民ニーズに基づく予算化の優先順位をつけるための判断基準の一つにすること

## 3 評価の手法

### (1) 評価の流れ

事業実施団体と区担当課が作成した「事前確認書」を基本に、それぞれ「自己点検シート」の記入を行い、双方の協力の下、「相互検証シート」を作成します。また、評価時点までの事業の実施概要の提出を求めるほか、受益者からの評価はアンケート等で把握します。

さらに、委員による事業視察を行い、事業の進捗状況等についても確認を行います。

これらを実評価資料として、協働事業評価会が両者にヒアリングを行い、評価を実施します。

### (2) 評価の項目

1年目の評価については、「計画」・「実施」・「反省と改善」の事業プロセスごとに評価を行うとともに、総合評価を実施します。事業プロセスごとの評価は、主に次の着眼点によって実施します。なお、2年目・3年目の評価については、1年目の評価の視点に加えて、成果目標の達成状況等の「結果」についても評価を実施します。

(3) 評価の公開

評価結果については、ホームページ等により、広く区民等に公開し、事業の透明性を図り、更なる協働の推進に結びつけていきます。事業実施団体と区担当課は、評価の結果により、課題が明らかになった場合には、双方の活動や事業の実施に反映していく必要があります。

■協働事業の評価にあたっての主な着眼点

| 協働事業評価項目  |                          | 評価にあたっての主な着眼点  |
|---|--------------------------|--|
| ①優れている ②適切である ③課題はあるが、ほぼ適切である ④不十分であり改善が必要 ⑤その他 |                          | ※評価は、協働することの意義を明確にするとともに、 <u>それぞれの事業の意図する成果の達成状況を明らかにすることを目的に、事業実施者(事業実施団体と区の事業担当課)へのヒアリングにより行います。</u> |
| 計<br>画  | 1 事業における区民ニーズや課題のとらえ方    | 地域ニーズや課題の共通認識での把握  |
|   | 2 事業の成果目標の設定             | 成果目標の明確化と共有、達成度を把握可能な成果目標の設定、費用対効果からみた事業計画の妥当性   |
|   | 3 協働の相手への期待とその成果         | 協働の相手方との問題意識の一致、対等なパートナーシップの確立、協働による相乗効果の把握と認識の一致  |
|   | 4 役割分担の決定方法              | 十分な意見交換のうえでの、協働を有効に機能させるための役割・責任の分担の明確化  |
| 実<br>施  | 5 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有    | 事業の進捗状況の確認や意見交換の実施、必要に応じた協議のうえでの事業の進め方の軌道修正  |
|   | 6 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い | 目標達成に向けた取り組み状況の共有と検討、必要に応じた協議のうえでの目標達成のための手段の見直しの実施  |
| 反<br>省<br>と<br>改<br>善                           | 7 改善すべき内容の把握             | 改善方法の検討と共通理解、今後の事業展開に関する方向性の認識の一致  |

#### 4 評価の対象

(1) 評価対象団体等

① 協働事業提案制度による事業実施団体(特定非営利活動法人、市民活動団体・ボランティア団体などの社会貢献活動団体。以下「NPO等」という。)

② 区の事業担当課

(2) 評価対象事業

協働事業提案制度による26年度実施の1事業

(25年度に採択した協働事業で実施1年目の1事業)

(3) 評価の実施経過

|                |  |
|----------------|--|
| 平成26年<br>4月16日 | 協働支援会議<br>26年度の取り組みの方向性の確認   |
| 9月             | 事業実施団体と区に自己点検・相互検証シート作成依頼<br>事業実施団体と区がそれぞれに自己点検を実施                                     |
| 9月2日           | 協働事業評価視察会(於:男女共同参画推進センター)<br>第一回セミナー「効率アップのためのタイムマネジメントセミナー ~仕事のムダを省いてワーク・ライフ・バランスの実現」 |
| 9月16日          | 事業実施団体と区が自己点検の結果をもとに意見交換し、相互検証を実施  |
| 10月2日          | 第1回協働事業評価会<br>◆ヒアリング 25年度採択1事業   |
| 10月20日         | 第2回協働事業評価会<br>◆評価内容の調整・審議<br>◆評価書作成方針確認  |
| 12月1日          | 第3回協働事業評価会<br>◆評価報告書作成   |
| 平成27年<br>1月16日 | 協働支援会議<br>◆評価結果のまとめ  |



## 5 協働事業評価実施事業

### 【平成 25 年度に採択、実施 1 年目の事業】

|       |  |                |                  |
|-------|--|----------------|------------------|
| 事業名   | 働きやすい職場づくりの<br>情報発信事業  | ヒアリング<br>実施日   | 平成 26 年 10 月 2 日 |
| 実施者   | 実施団体   | 公益財団法人 日本生産性本部 |                  |
|       | 区担当課   | 男女共同参画課        |                  |
| 事業目的  | <p>「企業等の地域貢献活動や従業員の子育て・介護支援その他働きやすい職場づくりの取組み」の支援を行う。これにより、既にワーク・ライフ・バランスを推進している優良企業表彰・認定企業等のイメージアップや継続的に実施するための意識づけを図り、その具体的な取組みを情報発信することで、新たにワーク・ライフ・バランス推進に取り組む企業を増加させる。</p> <p>現在、新宿区内の個々の企業が「点」として行っているワーク・ライフ・バランス推進の優れた取組を、事例収集と情報発信をすることで地域の中に「線」として繋ぎネットワーク化を図り、新宿区全体の「面」でワーク・ライフ・バランス推進が進展して行くことを目的とする。</p>   |                |                  |
| 事業概要  | <p>初年度の事業として、①セミナー事業(セミナーの企画・実施)、②プラットフォーム事業(ホームページの作成)、③ネットワーク化事業(事例勉強会の企画・実施)、を行う。事業を進めていくうえでは下記に留意する。</p> <p>(1) 地域の経済団体(商工会、社会福祉協議会、中小企業・男女共同参画関係団体)等との連携・協働</p> <p>(2) 新宿区内の優良表彰企業・認定企業の積極的な参画及び区外の先進的事例の紹介</p> <p>※事例収集にあたっては、区内中企業の取組みの参考となるように採用する事例にかかる企業の規模・業種等のバランスに配慮する</p> <p>(3) セミナーや勉強会の開催とホームページの連動</p> <p>関連部署・団体との情報交換を行い、区の特性を踏まえ「新宿版」の事業として進める。</p> |                |                  |
| 目標・成果 | <p>(1) ワーク・ライフ・バランス取組事例の発信の増加、(2) ワーク・ライフ・バランス推進への取組み企業の増加、(3) 区民の参画・認知度向上を目標とし、具体的には下記を成果として成果を確認する。</p> <p>・セミナーの開催数および参加者数、セミナー参加者の満足度(アンケート)、事例勉強会の開催参加企業数、勉強会の満足度(アンケート)、ホームページの閲覧回数、関連団体での紹介数、優良表彰・認定企業の満足度(定性情報)、認定制度への申請数および認定数</p>  |                |                  |

※ 上記記載内容は、事前確認書、相互検証シート、ヒアリング時提出資料(P20~28)を基に作成

## 6 協働事業の評価結果

◇評価者〔 新宿区協働事業評価会 〕

◇事業名〔 働きやすい職場づくりの情報発信事業 〕

### ● 総合評価

C

- A 協働事業として適切で優れていると評価できる。
- B 協働事業として適切であるが、一部改善することでさらなる発展が期待できる。
- C 協働事業として概ね適切であるが、一部改善の必要がある。
- D 協働事業として取り組むにはかなりの改善が必要である。
- E 協働事業としては不十分であった。

### ・総合評価コメント

この事業の目的である、ワーク・ライフ・バランス（以下、「WLB」という。）の推進に向けて、団体・区担当課で相互の協議により達成度の把握可能な成果目標が設定できています。また、定期的に打合せをするなどして、必要な情報や問題意識の共有が図られ、良好な関係で協働ができていると評価します。

ただし、本事業の目的から考えると構成面での改善が必要であり、各企画を実施する際は、WLBの推進という本来の目的を常に意識することが重要です。

今後の事業展開にあたっては、団体も区担当課もたえず、なぜ新宿区が協働事業として取り組むのか、企業・従業員・区民にとって、さらには地域社会にとってなぜWLBが必要なのかを考え、相互に確認しながら取り組むことが重要です。また、企業規模や性別によって、異なるアプローチが必要となるため、そういった点も考慮して、課題の把握やニーズの分析を行い事業展開していただきたいと考えます。

働きやすい職場づくりの取組み事例を収集し、様々な情報媒体で情報発信していくことで、中小・零細企業やNPO法人等を含む新宿区内の企業がWLBに取り組むきっかけとなることを望みます。また、ヒアリングで指摘された点をよく検討し、この事業がWLBの推進における先駆的事例となるよう魅力的な事業展開を期待します。

● 項目別評価

1 = 優れている 2 = 適切である 3 = 課題はあるがほぼ適切である

4 = 不十分であり改善が必要

| 協働事業評価項目 |                          | 評価指標  |
|----------|--------------------------|---|
| 計画       | ① 事業における区民ニーズや課題のとらえ方    | 1・2・ <span style="border: 1px solid black;">3</span> ・4 |
|          | ② 事業の成果目標の設定             | 1・2・ <span style="border: 1px solid black;">3</span> ・4 |
|          | ③ 協働の相手への期待とその成果         | 1・2・ <span style="border: 1px solid black;">3</span> ・4 |
|          | ④ 役割分担の決定方法              | 1・2・ <span style="border: 1px solid black;">3</span> ・4 |
| 実施       | ⑤ 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有    | 1・2・ <span style="border: 1px solid black;">3</span> ・4 |
|          | ⑥ 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い | 1・ <span style="border: 1px solid black;">2</span> ・3・4 |
| 反省と改善    | ⑦ 改善すべき内容の把握             | 1・ <span style="border: 1px solid black;">2</span> ・3・4 |

・評価コメント

|    | 協働事業評価項目  | 評価点 |
|----|---|-----|
|    | <p><b>① 事業における区民ニーズや課題のとらえ方</b></p> <p>少子高齢化・核家族化が進む中、仕事と生活の調和を実現するWLBを推進していくことは重要です。新宿区では、「新宿区第二次男女共同参画推進計画」を定め、WLBの推進を掲げておりますが、企業・従業員・区民などの計画に対する認知度・理解度は高いとは言えません。</p> <p>その中で、WLBの推進に取り組む企業の情報を収集し、広く情報発信する本協働事業は、新宿区の課題を捉えた事業であると評価します。また、企業・従業員向けに行ったタイムマネジメントに関するセミナーは、WLBの推進に向けての取り組みを示した内容となっており、参加者数や満足度から、ニーズを捉えていると評価します。</p> <p>今後、より多くの区民の認知度・理解度を高めるために、WLBの社会的背景や新宿区における課題を整理し、企業・従業員・区民のニーズ分析を行い、事業に反映していただきたいと考えます。</p> | 3   |
| 計画 | <p><b>② 事業の成果目標の設定</b></p> <p>成果目標として、セミナー参加者数、アンケートによる満足度、HPの閲覧回数、認定制度への申請企業数・認定企業数等、具体的な数値を設定しており、達成度の把握可能な目標設定ができていると評価します。</p> <p>しかし、この事業の成果を測るためには、数値だけではなく、認定前と認定後の企業や従業員の変化を把握するなどの視点も必要です。</p> <p>WLBの推進に向けて、上記の視点を踏まえつつ、今後の事業展開に沿った成果目標の設定を期待します。</p>   | 3   |
|    | <p><b>③ 協働の相手への期待とその成果</b></p> <p>事業を実施するにあたって、団体・区担当課で定期的に意見交換を行うことで、必要な情報や問題意識の共有が図られています。また、区担当課は広報面の役割にとどまらず、企画内容について積極的に提案するなど、対等なパートナーシップのもと、事業に取り組んでいると評価します。</p> <p>WLBを推進するために、中小・零細企業や非営利団体等を含めた区内の企業にどのような働きかけを行っていただけるかなど、具体的なイメージを共有しつつ事業を進めていただきたいと考えます。</p>  | 3   |
|    | <p><b>④ 役割分担の決定方法</b></p> <p>相互に役割を確認しながら、それぞれの持つネットワークを生かして効果的に進めるという視点を持って事業に取り組んでおり、役割分担は出来ていると評価します。</p> <p>引き続き、役割分担については、認識の相違が生じないように、その決定方</p>  | 3   |

|       |  |
|-------|--|
|       | <p>法について相互に確認し合いながら事業に取り組んでいただきたいと思いますと考えます。</p>   |
| 実施    | <p><b>⑤ 事業の進捗状況や事業に関する情報の共有</b> <span style="float: right;">3</span></p> <p>事業成果を高めるために、事業の進捗状況に応じて発生する課題や問題点を抽出し、情報の共有を図るとともに、調整作業を行っていることは評価できます。</p> <p>一方、セミナーの開催時期に遅れが生じており、進捗状況の管理に課題があります。</p> <p>進捗スケジュールや実施体制などを再確認し、しっかりとした共通認識のもと進捗状況の管理を行い、WLBの推進に向けての一層の努力を期待します。</p> |
|       | <p><b>⑥ 協働の相手との成果目標の達成度などの話し合い</b> <span style="float: right;">2</span></p> <p>定期的な打合せにより、成果目標や課題等の共有が図られており、目標達成に向けた努力がなされています。また、成果目標として設定した参加者数を概ね達成できたことは評価できます。</p> <p>この事業を通じて、区内の中小企業にもWLBが推進されるよう、中小企業への取り組みについて成果目標を設定することも有効であると考えます。</p>                                |
| 反省と改善 | <p><b>⑦ 改善すべき内容の把握</b> <span style="float: right;">2</span></p> <p>ヒアリングで指摘された費用対効果、セミナーの内容等の課題について、事業の検証を反映し今後の改善に生かして行こうという前向きな取り組みが期待できます。</p> <p>今後も、一つひとつの事例を検討し、事業の改善に向けた取り組みを期待します。</p>   |



## 【参考資料】

協働事業事前確認書 P14

協働事業自己点検シート P15

協働事業相互検証シート P18

ヒアリング時提出資料 P20



協働事業提案制度による\_\_\_\_\_年度実施事業 事前確認書

|     |       |
|-----|-------|
| 作成日 | 年 月 日 |
|-----|-------|

|                        |      |  |
|------------------------|------|--|
| 事業名                    |      |  |
| 実施者                    | 団体名  |  |
|                        | 区担当課 |  |
| 事業の目的                  |      |  |
| 事業の概要                  |      |  |
| 事業目標・<br>想定される<br>事業成果 |      |  |
| 事業の受益者                 |      |  |
| 協働により<br>期待される<br>効果   |      |  |

**※実施2年目の事業のみ記入**

(昨年度の協働事業評価で指摘された課題への対応も含めて記入してください。)

|                  |  |
|------------------|--|
| 1年実施して把握した課題・問題点 |  |
| 2年目実施にあたっての改善点   |  |



## 《協働事業自己点検シート》

| 記入日 | 記入者   | 記入責任者       |
|-----|---|-------------|
| 年 月 | ※どちらかをチェックしてください<br>団体 <input type="checkbox"/> 区担当課 <input type="checkbox"/> | 氏名：<br>連絡先： |

|        |             |  |
|--------|-------------|--|
| 事業名    |             |  |
| 事業の実施者 | 団 体         |  |
|        | 区担当課        |  |
| 事業の目的  |             |  |
| 事業の概要  |             |  |
| 実施期間   | 年 月から 年 月まで |  |

※想定される事業成果や受益者について事業実施過程で変更が生じた場合は、現時点欄に記入してください。

|                         |  |
|-------------------------|--|
| 事業目標・<br>想定される<br>事業の成果 |  |
|-------------------------|--|

現時点⇒

|  |
|--|
|  |
|--|

|                 |  |
|-----------------|--|
| 想定される<br>事業の受益者 |  |
|-----------------|--|

現時点⇒

|  |
|--|
|  |
|--|

\* I・IIは、協働の取組みを5段階で評価してください。

|                             |                        |
|-----------------------------|------------------------|
| 5 =十分に達成された（80%以上）          | 4 =ほぼ達成された（60%～80%）    |
| 3 =課題があるものの概ね達成された（40%～60%） |                        |
| 2 =ほとんど達成されなかった（20%～40%）    | 1 =まったく達成されなかった（20%未満） |

## I 協働事業の計画づくり

ここでは、事業を実施するための計画づくり・仕様づくりの段階での協働の取組みについて評価してください。

①計画づくりのプロセスで双方がどのように協力して取り組みましたか。

| 項 目                          |  | 評 価 |   |   |   |   |
|------------------------------|--|-----|---|---|---|---|
| Q1                           | 率直な意見交換のもとに、対等な立場で計画づくりを進めましたか。<br>(対等)            | 5   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| Q2                           | お互いの自主的な発案を尊重しあって計画づくりを進めましたか。<br>(自主性尊重)          | 5   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| Q3                           | お互いが役割を自覚して、自立的な事業展開ができるように、計画づくりを進めましたか。<br>(自立化) | 5   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| Q4                           | お互いの特性や立場の違いを理解して計画づくりを進めましたか。<br>(相互理解)           | 5   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| Q5                           | 事業目的を相互に確認し明確にして、計画づくりを進めましたか。<br>(目的共有)           | 5   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。 |  |     |   |   |   |   |
|                              |  |     |   |   |   |   |

②協働事業の質・効果の向上に向けて、どのように計画を検討しましたか。

| 項 目 |   | 評 価 |   |   |   |   |
|-----|---|-----|---|---|---|---|
| Q6  | お互いの特性を生かしつつ、地域ニーズや課題を的確にとらえた計画となりましたか。 | 5   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| Q7  | 協働で行う意義や必要性を相互で検討・確認した計画となりましたか。        | 5   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| Q8  | 費用に対する効果を相互に検討・確認した計画となりましたか。           | 5   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| Q9  | 役割分担や責任を相互に検討・確認した計画となりましたか。            | 5   | 4 | 3 | 2 | 1 |

|                              |                                 |   |   |   |   |   |
|------------------------------|---------------------------------|---|---|---|---|---|
| Q10                          | 協働で実現する目標を相互に検討・確認をした計画となりましたか。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。 |                                 |   |   |   |   |   |
|                              |                                 |   |   |   |   |   |

## II 協働事業の実施

ここでは、事業の実施段階での協働の取り組みについて評価してください。

### ①事業を進めていくプロセスで双方がどのように協力して取り組んでいますか。

| 項 目                          |  | 評 価 |   |   |   |   |
|------------------------------|--|-----|---|---|---|---|
| Q11                          | 率直な意見交換のもとに、対等な立場で事業を進めていますか。<br>(対等)                  | 5   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| Q12                          | お互いの特性を発揮して、持てる力を自主的・効果的に出し合いながら事業を進めていますか。<br>(自主性尊重) | 5   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| Q13                          | お互いが役割を自覚し、過度に依存することなく事業を進めていますか。<br>(自立化)             | 5   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| Q14                          | お互いの特性や立場の違いを理解して、事業を進めていますか。<br>(相互理解)                | 5   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| Q15                          | 事業の目的をお互いが理解し、共有しながら事業を進めていますか。<br>(目的共有)              | 5   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。 |  |     |   |   |   |   |
|                              |  |     |   |   |   |   |

### ②事業の質を高めるためにどのような取り組みを行っていますか。

| 項 目                          |                                      | 評 価 |   |   |   |   |
|------------------------------|--------------------------------------|-----|---|---|---|---|
| <b>■事業の質の向上への取組みについて</b>     |                                      |     |   |   |   |   |
| Q16                          | お互いの特性を発揮して、適切な解決策を見だし、課題を解決できていますか。 | 5   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| Q17                          | 事業の進捗状況に応じて、必要な情報を共有・活用できていますか。      | 5   | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 上記項目の主な評価理由・補足説明などを記入してください。 |                                      |     |   |   |   |   |
|                              |                                      |     |   |   |   |   |

## 《協働事業相互検証シート》

|     |       |   |
|-----|-------|---|
| 記入日 | 年 月 日 |   |
| 記入者 | 提案団体  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体名：</li> <li>・ 記入責任者<br/>氏 名：<br/>連絡先：</li> </ul> |
|     | 区担当課  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部署名：</li> <li>・ 記入責任者<br/>氏 名：<br/>連絡先：</li> </ul> |

|        |      |  |
|--------|------|--|
| 事業名    |      |  |
| 事業の実施者 | 団 体  |  |
|        | 区担当課 |  |
| 事業の目的  |      |  |
| 事業の概要  |      |  |
| 事業の受益者 |      |  |

## 事業の計画づくり

(協働して事業計画(仕様)をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったことはどのようなことですか。また、認識の違いを改善するために、今後どのように取り組んでいきますか。)

【共有できたこと】

【認識に違いがあったこと】

【改善に向けた取組み】

## 事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったことはどのようなことですか。また、認識の違いを改善するために、今後どのように取り組んでいきますか。)

【共有できたこと】

【認識に違いがあったこと】

【改善に向けた取組み】

●自由意見

## 働きやすい職場づくりの情報発信事業～中間報告～

日本生産性本部

### （1）セミナー事業（実績）

#### ①企業担当者対象

日 程：2014年9月2日（火） 14：00～16：00

講 師：大場 正彦（日本生産性本部 主任経営コンサルタント）

会 場：男女共同参画推進センター（ウイズ新宿 荒木町16番地）

参加者数：47名

「効率アップのためのタイムマネジメントセミナー

～仕事のムダを省いてワーク・ライフ・バランスの実現～」

講演：公益財団法人日本生産性本部 主任経営コンサルタント 大場正彦 氏

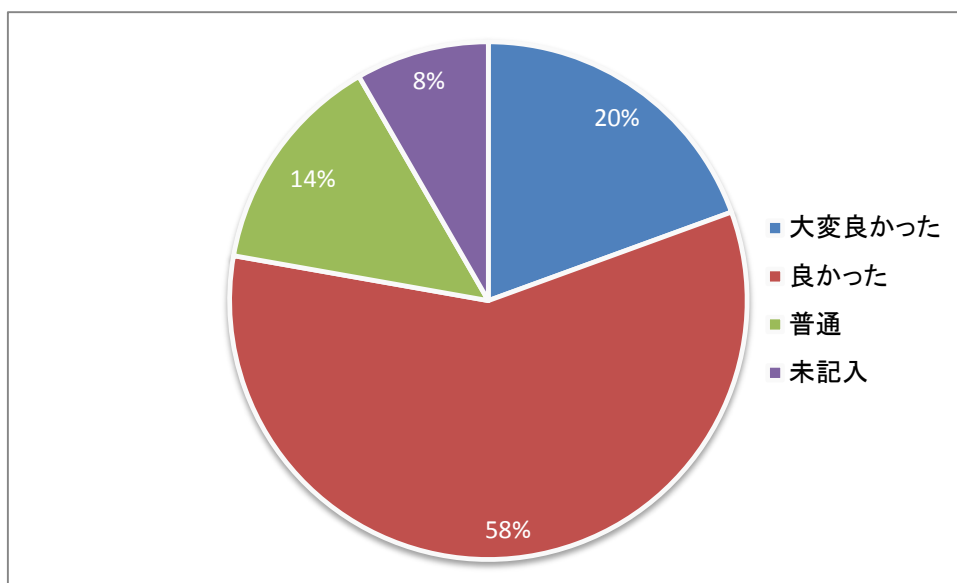
新宿区 WLB 事業の紹介：日本生産性本部 担当者

募集方法（経済団体との連携・協働）：パンフレット（別添①）の配布が中心。

- ・新宿区 広報誌への掲載、区内公共施設での配布、優良企業表彰、認定企業へ配布
- ・東京中小企業家同友会 新宿支部・・・会員企業 300社にメールでのご案内
- ・東京商工会議所 新宿支部・・・会員企業 2990社にFAXでのご案内
- ・社会福祉法人新宿区社会福祉協議会・・・メールでのご案内
- ・日本生産性本部 賛助会員、セミナー参加企業を中心に配布

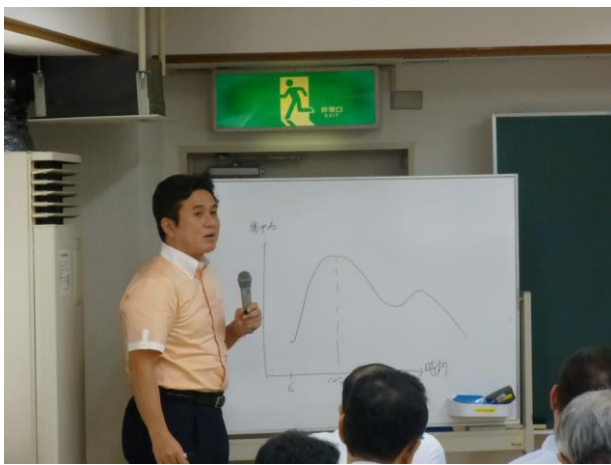
アンケート（別添②）：セミナー全体の感想

1. 大変良かった-7名 2. 良かった-21名 3. 普通-5名 未記入-3名



セミナー参加企業から「ワーク・ライフ・バランス推進企業認定制度」への申請あり。

セミナーの様子



②企業幹部・一般社員対象（予定）

「新宿区ワーク・ライフ・バランス推進シンポジウム」

1. 目的

ワーク・ライフ・バランスの意味や取組の意義、具体的な方法、企業における現状と課題について理解を深めるとともに新宿区内でワークライフバランスに取り組む企業の実践的な好事例を共有する。

2. 参加対象 中小企業から大企業までの経営幹部および人事担当者、一般社員

3. 実施場所 産業会館(B I Z新宿) 〒160-0023 新宿区西新宿6丁目8番2号 TEL:03-3344-3011

4. 開催日時 11月26日(水) 13時30分～16時

5. プログラム

【基調講演】

13:30～14:30 「今、成長戦略としてのワーク・ライフ・バランス」(仮題)

麗澤大学 経済学部 教授 木谷 宏 氏 50分+10分(質疑)

<休憩:15分>

【パネルディスカッション】

14:45～16:00 「4つの視点(子育て・地域活動・介護・働きやすい職場)で取り組む新宿区のワーク・ライフ・バランス」(仮)

「自社のワークライフバランス推進の取組について」10分×3社

「パネルディスカッション」45分

(コーディネーター:麗澤大学 経済学部 教授 木谷 宏氏)

※下記から3社程度

【大企業】株式会社 JR 東日本リテールネット

株式会社セプテーニ

【中小企業】

ねぎしフードサービス

株式会社東京堂

株式会社赤ちゃんとママ社



③区民対象（予定）

第1案「ママになってからのキャリア論 ～育休後のキャリア構築のポイントとは？」

講演会：育休後コンサルタント 山口 理栄 氏

第2案

「“職業人・家庭人・地域人”としてのワーク・ライフ・バランス」

株式会社東レ経営研究所 ダイバーシティ&ワーク・ライフ・バランス研究部

部長兼主席コンサルタント

(2) プラットフォーム（ホームページ作成）事業（実績）

・企業の事例収集

優良表彰企業ヒアリング

雪印メグミルク株式会社

フコクしんらい生命保険株式会社

ねぎしフードサービス

J R 東日本リテールネット（依頼中）

認定企業ヒアリング

セプテーニ

・ホームページ作成業者との仕様確認および打ち合わせ

(3) ネットワーク化（事例勉強会等）事業（予定）

1. 目的

- ①【セミナーとの連動】を意識して、勉強会ではより具体的な中身や参加企業の情報交換の場とする
- ②新宿区のワーク・ライフ・バランスの4つの分野【子育て支援・地域活動支援・介護支援・働きやすい職場づくり】理解や具体例を共有できる
- ③事例発表の内容はコンテンツとして蓄積し、ホームページ作成などに活用する。
- ④各テーマに応じて新宿区が支援をしている制度（補助金や施設）などもご案内し、認知いただく。

2. 参加対象 中小企業から大企業までの人事担当者および現場の社員（メンバーはテーマに応じて交代可）

3. 実施場所 男女共同参画推進センター（ウイズ新宿）

4. 開催日時 2014年10月～2015年3月 2カ月に1回程度（15時～17時）

スケジュール：15時～16時…企業事例紹介

16時～16時30分…質疑

16時30分～17時…グループもしくはペアに分かれて自社への導入について

(10月下旬)

第1回事例勉強会【女性活躍推進・子育て支援】

「雪印メグミルク／フコクしんらい生命／東京堂／ブリティッシュ・カウンシルの企業事例紹介」（うち1～2社）

(11月下旬～12月上旬頃)

第2回事例勉強会【地域活動支援－WLBと地域活動支援】

「ねぎしフードサービス／赤ちゃんとママ社の事例紹介」

(1月頃)

第3回事例勉強会【働きやすい職場づくり】

第1案「クラスメソッド」(H23 新宿区WLBベストバランス、H24 東京都WLB認定企業)

第2案「株式会社日本レーザー」勤務に応じた多様な雇用形態、女性のライフスタイルに応じた働き方 等

第3案「大和小田急建設（※東京都のワークライフバランスⅡにて紹介）

もしくは日本建設産業職員労働組合協議会

（「2014年第4回ワークライフバランス大賞 優秀賞」

(3月頃)

第4回事例勉強会【介護支援－仕事と介護の両立支援】

社会保険労務士による「仕事と介護の両立」推進のためのポイント解説セミナー

※新宿区内企業での好事例があれば依頼する

# 効率アップのためのタイムマネジメントセミナー

～仕事のムダを省いてワーク・ライフ・バランスの実現～

日 程：2014年9月2日（火） 14：00～16：00

講 師：大場 正彦（日本生産性本部 主任経営コンサルタント）

会 場：男女共同参画推進センター（ウイズ新宿 荒木町16番地）

参加対象：（定員50名）

（※定員になり次第、締め切らせていただきますので予めご了承下さい）

参加費：無料



## ポイント

- ①非効率な働き方を解消するための方法や1人ひとりができる個人のタイムマネジメントについて学びます。
- ②長時間労働削減・残業削減のための組織のタイムマネジメントのポイントをわかりやすく解説します。
- ③新宿区のワーク・ライフ・バランス事業についてご紹介します。

## 開催趣旨

少子高齢化による労働人口の減少や共働き世帯の増加、要介護者の増大が見込まれる中、育児や介護をしながら働く人が増えてきており、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の重要性はますます高まっています。ワーク・ライフ・バランスの推進は、従業員の「働き方」、「暮らし方」双方の継続的改革を通じて、企業活動にプラス効果をもたらすものです。

今回は「タイムマネジメント」の観点から非効率な働き方を解消するための取り組み方法や1人ひとりができる【個人のタイムマネジメント】、および長時間労働削減・残業削減のための【組織のタイムマネジメント】の取り組みのポイントをわかりやすく解説します。「時間を有効に使う」「より大きな価値を生むために使う」ことが、ワーク・ライフ・バランスの取れた働き方にも繋がります。また、新宿区では、ワーク・ライフ・バランスを進める企業のご支援をしており、合わせて事業のご紹介もいたします。

用務ご多用のことと存じますが、皆様のご参加をお待ちしております。

## プログラム

14：00

### 1. 個人のタイムマネジメント

- (1) タイムマネジメントとは
- (2) タイムマネジメントの階層構造
- (3) 中期タイムマネジメント
  - ・見える化⇒一覧にする
  - ・やるべきことの明確化
- (4) 短期タイムマネジメント
  - ・やりきりリスト
  - ・2分割法
  - ・“面倒くさい”を打破する 等

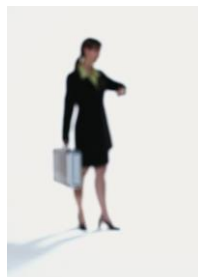
### 2. 組織のタイムマネジメント

- (1) 効率的な働き方を阻害する組織上の課題
  - ・非効率の3つの病巣
- (2) 非効率の排除
  - ・仕事の改善が進まない理由
- (3) 長時間労働解消のヒント
  - ・見える化、平準化 等
- (4) ラインタイムマネジメント
  - ・組織的なタイムマネジメントの必要性 等

### 【新宿区事業のご紹介】新宿区におけるワーク・ライフ・バランス事業について（事務局）

- (1) ワーク・ライフ・バランス推進企業認定制度
- (2) 推進コンサルタント派遣制度の説明
- (3) 具体的なコンサルティングの進め方

16：00 終了



**1. 本日のセミナー全体のご感想をお聞かせください。**

1. 大変良かった-7名 2. 良かった-21名 3. 普通-5名 未記入-3名

**<全体の感想>**

- ・ 個人のタイムマネジメントの部分で勉強になり、今後にも生かしたい。
- ・ 細かいテクニックの羅列ではなく、脳の機能から働き方見て、妥当な時短の方法を確認できた点が良かった。
- ・ 具体的に取り組み易い様にフレームワーク化されていて、分かり易く情報もたくさん盛り込まれていて大変勉強になりました。
- ・ 特に組織のタイムマネジメントについてのお話の中に、会社に戻って取り入れたい施策がたくさんあった。
- ・ 見えにくい物を分かりやすく分解して、業務を見直すヒントが多分にあった。
- ・ 会場の空調が悪い。
- ・ もう少し組織のタイムマネジメントに関するパートの説明を聞きたかった。(別途、有益なセミナーや資料(本など)をご案内頂きたい)
- ・ 具体的な表/シートなどのツールを紹介して頂き、役立つと思われる。説明は分かりやすかった。
- ・ もう少し1つの項目について、じっくりと聞きたかった。
- ・ やらなくて良い仕事を見つけるというポイントに興味を持った。全体的には聞きやすく、会場環境も良かった。
- ・ “時間がないので割愛”は構わないのですが、空欄のあるパワポの空欄に入るキーワードはせめて教えて頂きたかったです。
- ・ 自分の作業の時間管理について、どう整理し進めていけば良いのか理解できたので、参加して良かったです。
- ・ タイムマネジメント、優先順位とはよく言われていて意識して進めている。2分割法を使うとより効率よく仕事のできる事が解りましたので、この方法も活用したいと思いました。〇〇の働きもいろいろ有効活用したい。
- ・ 自己、全体的にヒントになる内容多く、今後役立ちそう。
- ・ 2分割法など、自分のタイムマネジメントに係る部分は、大変分かりやすくなった。組織のタイムマネジメントに係る部分は、時間がなく、もっと詳しく聞きたかった。
- ・ 良くまとまった内容であったと思いますが、私にとってはこれまでに勉強してきた事ばかりでした。
- ・ 個人のタイムマネジメント→つまらなかった。題材の選択ミス、パワーポイントに文章を盛りすぎるので興味が薄くなる。組織のタイムマネジメント→有益でした。参考になるものは参考にしていきたい。
- ・ 自分の部長が話していた11月の忙しい月に行いイベントの7月からの準備といった現実的なところの理解ができた。又、管理職としての部下への管理や指示法がわかった。

**2. 本セミナーで、ワーク・ライフ・バランス推進のために有意義だった内容をお聞かせください。**

- ・ タイムマネジメントセミナー、短期のやりきリストなどすぐに実施したいと思います。
- ・ 組織のマネジメント手法
- ・ ワーク・ライフ・バランスが実現されている企業の取り組み事例を知ることができた。

- ・メンタル面での課題等、“ちょっとしたコツ”がタイムマネジメントで重要なことが分かり勉強になりました。
- ・2分割法、非効率発生の主な要因、見える化が第一歩。
- ・組織のタイムマネジメントの仕様の見える化が具体的で、即実行してみたい内容だった。
- ・組織として、仕事のムリムダムラを省き、効率化仕様の見える化による効率化。
- ・業務分析。
- ・時間はみんなに平等であり、いかに仕事を棚卸しすることが大切か改めて理解できた。
- ・単なる労働時間削減ではなく、会社の成長手段としての手法が聞けた。
- ・長時間労働の削減の手法。
- ・徹底した効率化。(短期のタイムマネジメント)
- ・中期的な整理の仕方と、短期的な〇〇、それぞれに対する対処法を学べたこと。
- ・新宿区のワーク・ライフ・バランス推進の事業を知ることができた。コンサルタントを5回も無料で派遣してくれるなど充実したものであると思う。
- ・セミナーの案内。
- ・「タイムマネジメント」セミナー資料 P.36 の会議の改善について、参加者をマスト・ベターに分ける部分は参考になりました。課・グループ単位で全員出席という事が多いので。
- ・全体最適の意識を、メンバー全員が共通で持つことが重要であると思う。
- ・非効率の排除・見える化。
- ・推進企業の認定という制度があることを知った。

### 3. 本セミナーどのお知りになりましたか。該当する番号を○で囲んでください。

1. 新宿区男女共同参画課の案内(パンフレット等) - 5名
2. 新宿区内施設の案内(パンフレット等) - 4名
3. 広報しんじゅく - 1名
4. 東京中小企業家同友会の案内(メール等) - 6名
5. 東京商工会議所の案内(FAX等) - 4名
6. 社会福祉協議会の案内(メール等) - 1名
7. 日本生産性本部からの案内(パンフレット等) - 11名
8. その他 - 3名(当社内研修部社員からの紹介、社内の研修部からの案内、社内窓口からの案内)

### 4. ワーク・ライフ・バランス推進において今後取り組みたいテーマは何ですか。該当する番号を○で囲んでください。(いくつでも可)

- 子育て支援分野
  1. 女性の育児休業推進 - 3名
  2. 男性の育児休業推進 - 6名
  3. 子育て支援関連の制度導入等) - 3名
- 地域活動支援分野
  4. 企業の地域活動に対する貢献 - 3名
  5. 社員の地域活動に対する貢献 - 4名
- 介護支援分野
  6. 介護休業が取得しやすい環境の整備 - 6名
  7. 介護しやすいようにするための制度の導入等) - 6名

- 働きやすい職場づくり分野
- 8. タイムマネジメント-20名
  - 9. セクハラ・パワハラ対策-4名
  - 10. 在宅勤務・フレックスなど働き方を見直す制度の導入-13名
  - 11. 女性が活躍できる職場づくり-11名
- その他-1名 (業務外なので回答せず)

**5. ワーク・ライフ・バランス推進に関する新宿区の制度について本セミナーを受講する前から知っていましたか。知っていた制度の該当する番号を○で囲んでください。(いくつでも可)**

- 1. ワーク・ライフ・バランス推進認定制度 - 8名
- 2. ワーク・ライフ・バランス推進優良企業表彰- 5名
- 3. ワーク・ライフ・バランス推進コンサルタント派遣- 4名
- 4. 男性の育児介護奨励金- 4名
- 5. 「ワーク・ライフ・バランス企業応援資金」制度 (中小企業向け融資の斡旋) - 1名
- 6. 新宿区の契約制度における優遇措置 (モデル実施)

**6. 新宿区内に事業所のある企業にお勤めの方にお伺いします。「新宿区 ワーク・ライフ・バランス認定制度」について事務局の説明を聞いてどのようにお考えになりましたか。**

- 1. 申請を検討することができる-4名
- 2. 申請を検討することができない-2名 (理由:本店所在地は新宿区だが、主たる事業所は新宿外にある)  
(江東区ですが、参加させて頂いたので…)
- 3. わからない -16名

**7. その他ご希望・要望事項等ご自由にご記入ください。**

- ・ イベントマネジメント
- ・ 認定いただいた企業の者ですが、1つ目のセミナーためになりありがとうございました。認定もらっているからではないと思いますが、2つ目の事業(新宿区)案内はパンフレットになっているモノをそのまま読み上げるような内容で良かったのだろうかと(関心をもってもらえたのか)疑問。

平成26年度 新宿区協働事業評価報告書

平成27年2月発行

印刷物作成番号

2014-32-2601

編集・発行 新宿区地域文化部地域調整課管理係

東京都新宿区歌舞伎町1-4-1

電話 03-5273-3872

この冊子は、森林資源の保護とリサイクルの促進のため、  
古紙を利用した再生紙を使用しています。